



● 教区長あいさつ

奥村尚人教区長

本日、第2回北海道教区教区祭を開催するにあたり、教務支庁会場をはじめ、各支部会場にご多用の中、お集まり下さいました皆様に、心よりお礼を申し上げます。

誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

さて、この春は教区改選期ということもございまして、開催にあたっては大変慌ただしく忙しい思いをおかけしました。

特に、支部長先生はじめ、支部内の準備調整などにご尽力いただきましたこと、また、教区祭実行委員会や事務局の皆様には早朝から深夜まで様々おつとめ頂いておりますこと合わせて御礼申し上げます。

改めまして、ちょうど1か月前の7月30日午前のことでしたが、ご承知のようにカムチャツカ半島付近でマグニチュード8.8の地震が発生し、それに伴いまして全国に津波警報が発令されました。

北海道は根室で80センチ、岩手県久慈では1メートル40センチ、また、遠く鹿児島や沖縄県でも観測されたのでございます。

・教区、支部の目指すもの

こうした中、災害救援ひのきしん隊北海道教区隊では、道内各支部隊や支部に状況確認の連絡を行い、有事に備え準備を進めました。

北海道教区は、これまでに有珠山の噴火災害を経験し、そうした節を乗り越えて来ました。当該支部の室蘭支部では、こうした経験から数年前より有珠山の噴火に備え、洞爺湖町など防災協定を結んでおりますが、そのことから支部の災害に備える活動は卓越しております。近隣の自治体にも評価され、この度の津波警報を受け、避難所として教会を活用していただいたり、炊き出しを行ったと報告を受けています。

私は、「何とも素晴らしいことだなあ」と感銘を受けており



奥村教区長

ます。そしてこれが教区や支部の目指すべき一つの姿だと思っております。

おさしづに

「どう、あこれまで心を合わせ頼もしい道を作りてくれ。あれでこそ真の道であると、世界に映さなきゃならん。」(明治35・9・6)と、お示しいただいております。正に、おさしづ通りの姿であると思います。普段の活動を通しての心を合わせた姿がおたすけの心が、世に映し出されたと思っております。

心を合わせるために、支部、組、班の例会や総会を開き、全教行事の「ひのきしんデー」や「にをいがけデー」をつとめ、各支部の活動を進めて行くんだと思うのであります。

何か物事を進めるといふときに、自身の思いとは少し離れていまして、一つの方向に、その思いに「心を合わせる」ということをおさしづでは強調されていると感じるのであります。

ですから、この教区祭も「教区内の隅々まで声を掛け、足を運び、遠近を問わず時間を費やし経費も掛けて、あそこまでして、心を合わせて教区祭をつとめてくれているのか」と、天に映ると確信致しております。

(2Pへ続く)

(1P続き)

そして心を合わせてどうするか、それは「教えを広める。映す。」ということであると思うのであります。室蘭支部のように世の中に真の道の姿を映すこと、これが教区祭の目的であります。

・骨身惜しまぬたすけあいと 元一日に思いをいたす

また先日は、天龍支部へお招きをいただきました。支部の育成部が中心となって、只々、おいしい料理を頂戴し、皆で飲み語らうというイベントでした。

この素晴らしい企画の裏には、教区行事への参加、毎年の地域への除排雪ひのきしん、「にをいがけデー」とコラボした「基礎講座」の支部開催。毎月の例会前の布教活動、支部一丸となった支部総会など、長年活動を通して、心を寄せ合ってきたからこそこのイベントであったと思います。

このような支部の姿は天龍支部に限らず、多くの支部でも行われておりまして、ある支部では地域自治体と防災協定を結んだり、社会福祉協議会と長年に渡って連携して、多種のひのきしん活動を行っておられるのであります。



真柱様は『同じ地域で居合やす者同士が奇しき関わり、奇しきいんねんを考え骨身惜しまぬたすけあいをしつかりしていく。』ということを教区支部の活動で大切な事としてお述べいただき、これを教区祭の意義の一つとしているのであります。

更にまた、骨身惜しまぬたすけあいと、元一日を振り返る姿として、今月の教区報に千恵広鈴木栄支部長先生のお話が載っています。

戦時中の教会全焼による初代会長さん達の出直し、ご本人の生死の分かれ目となった大怪我など、数々の節を乗り越え、家族共々に東京から現在地へ移転。

お父様が会長となられ初めての教会生活が始まり、そのスタートに際しては、上級も遠く、何も分からなかったもので、教会のいろはを支部の方々から教えていただいたそうであります。これまた、こうした事は先生の教会に限らず北海道の地域色として上級が遠い、おぢばが遠いという中に、支部内、地域内でのたすけあいがなされ、そうしたたすけあいがあつてのお互いであると思うのであります。そうした「元一日に思いをいたす」ということも教区祭の意義の一つであります。

・真柱様のお入込みに向かって

さて、こうした思いで教区祭をつとめ、近い将来に教区祭へ真柱様のお入込込みをいただき、新たな喜びの日を頂戴し、更には時代を担う世代への大きな力と致したいと思っておりますが、先日そうした思いで真柱様にその思いをお伝えしたいと、ご面会をお願いする段取りの中に、ある先生からご注意をいただいたのであります。

それは、真柱様が来られるから盛り上がる、人が集まるの思いは間違いいではないと思いが、最初からそういう思いです

るのであれば、ちよつとそこは違うのではないかと。と言われました。…ん、確かにそうだ！

真柱様にお入込みいただく順序として先ず、北海道は教区祭を通して意義に心を合わせ、また、そうした思いは一部の人間ではなく、私を始め主事、支部長が先達となって全教会へ思いをお届けしていかなければならないし、更にはより多くの教友と共に教区祭を通して、よろづたすけのおつとめを励行し、積み重ねて行かなければならないと思うのであります。

要するに真柱様にお頼りした教区祭ではなく、一手一つの姿を整えた教区祭に真柱様のお入込みを頂戴するのであります。



真柱様は「一手一つになつて力強く歩むまでには、もつとたくさんのようぶくが、年祭に心を向け、年祭へ向かつての動きに取り組むように働きかけ、丹精を続けなければ、教祖に安心しては頂けないと思います。」と(立教187年秋季大祭)でお話下さり、本年の年頭のごあいさつでは、一手一つになるには「自分に与つた立場の役割、また、いまやらなければならぬことに一生懸命に取り組むことだと思ひます。」(立教188年 年頭あいさつ)とお示しくだされています。

教区一丸となつて進むにはもつとたくさんの教会長、ようぶく、信者の皆様の協力とその働きかけ。そして、今やらなければならぬことを一生懸命取り組ませていただくこと、骨身惜しまぬたすけあいが大切だと思ひます。

先ずは、本日ご参集のお互いが、世の治まりと仲間づくりの思いを強め、一同のおたすけの心を一つに寄せて
“さあ、これから、勇みに勇んでおつとめをつとめさせていただきますしよ。”
どうぞよろしくお願い致します。

●余市支部長あいさつ 野村広司 支部長

ご紹介いただきました余市支部長の野村でございます。

余市支部という地域は、昔から漁業や農業が盛んなところであり、漁業ではウニやタラコが有名です。農業ではリンゴ、ぶどう、サクランボといった果樹が温暖な気候を活かして盛んに栽培されています。

また、朝の連続テレビ小説「マッサン」で有名になったニツカウキスキーの工場があり、近年ではワイナリーも数多く開業し、ワインの産地としても知名度を高めてきております。

当支部は、教会数13か所という小さな支部です。私は支部長をつとめる器ではないのですが、教会数が少ないため年齢順で、この春からつとめさせていただきます。

支部の歴史を振り返ります



余市支部長

と、平成の初めは教会11か所でした。その後、1か所が転出しましたが、近年になって3か所の教会が転入し、数が増えております。教会数が増えている支部は珍しいことと思ひ、ありがたく喜ばせていただいております。

余市町を中心にした支部で、すべての教会が30分以内に集まることが出来ます。北海道の広さを考えれば、この距離感是非常に恵まれた地域性であり、そのこともあり昔から支部活動は活発に行われてきたと感じております。

私自身の支部活動の歩みを振り返りますと、生まれ育ちは積丹半島の付け根にある岩内町で、そこは倶知安支部の地域です。そこでの支部活動の思い出は、少年会のキャンプや、こどもおちばがえりに1度参加したことです。

その後、おちばの高校、岐阜の大教会を経て北海道に戻りました。職場は北広島にあり、千恵広支部の地域です。こども活動が盛んな支部であり、青年会活動に参加させていただきました。

当時は教区のソフトボール大会に出場したり、札幌での青年会の大会に参加して大勢の会員と路傍講演をしたりと、さまざま



まな活動に加わった思い出があります。

私は、教会長子弟ではなかったのですが、平成元年に教会後継者として自教会に入りました。住んだことのない地域で知り合いもなく、信仰的に深いものもなかった私は、どのように活動すればよいのか不安や焦りを抱え、悶々とした時期を過ごしました。

そんな私を救ってくれたのが、支部や教区の活動でした。特に青年会として参加した緑化ひのきしんや布教活動を通して大きな勇みをいただき、今もつながる多くの教友と出会うことができました。

緑化ひのきしんは毎年参加し、やがては家族も連れて行くようになり、楽しい活動となりました。布教活動にも熱心に取

り組み、奥村教区長と二人で北見へ布教に行った思い出もあります。布教キャラバンでは、支部の仲間と函館や旭川などへ行き、にをいがけに励みました。本当に充実した青年会活動でありました。

その後、少年会や学生担当委員会、災救隊へと活動をつなぎ、今日まで歩んでまいりました。こうした支部や教区の活動のおかげで、私は救われ、勇みをいただいたと実感しております。

長年活動続ける中で、かつて少年会でお世話取りをした子どもたちが、今では支部活動の中心を担っている姿を見ると、本当に嬉しく思います。私の子どもたちも幼い頃から支部活動に参加し、今も教区や支部でそれぞれ活動しています。こうした場を通して信仰的に育てていただいていることに感謝しております。

大勢が集まる機会が少ない中、このたび教区の行事に参加し、「やはり集まるのはいいものだ」と語る方や、「支部では年寄りばかりだが、ここに来たら若い人がいるから勇めるよね」と話す方がいました。まさにこれが教区活動だと思ひます。

かつて青年会活動のキャッチ

フリーズに「俺の北海道は俺がやる」という言葉がありました。実に力強いテーマで、自ら進んで取り組む気概を持つ人たちが集まっていました。

その勇みのもと「集まること」であり、多くの人と触れ合う中で、勇みをいただけていくと信仰や活動につながっていくことが大切で、この元が、やはり教区活動だと思います。

上級や大教会の直属の活動も支部、教区の活動もどちらも大事な事であり、その直属が縦の糸。支部、教区活動という横の糸。縦糸と横糸が、きちんと合さって初めて丈夫な布が織り上がるように、どちらも同じくらい大切であります。

昨日の福祉フェスティバルでも、若い人たちが一所懸命活動する姿を見て、本当に嬉しく、頼もしく思いました。「俺の北海道は俺がやる」という気概を持った若者が今もたくさんいるんだなあと感じ、これからの北海道がますます楽しみだと感じております。

これからも支部、教区の活動を盛り上げ、信仰的にも共に成人させていただきたいと思ひます。

ありがとうございます。

●天塩支部長あいさつ

福井教之支部長

本日、参加くださいました300名のおつとめ奉仕者の皆様方、参拝者の皆様方、そして配信を通じて参加された各支部の皆様方。本日のおつとめ、誠に勇んでつとめてくださいまして、ありがとうございます。支部長を代表して、ご挨拶申し上げます。

私は天塩支部の福井と申します。今回の教区祭の開催にあたり、実行委員の一人として携わらせていただきました。教務支庁記念祭は100回を数え、一旦区切りを迎えました。

その後、新たに「教区祭」として開催するにあたり、教務支庁記念祭と教区祭の違いとは何か、記念という2文字が消えただけで何が違ってくるのかな



天塩支部長

ど、改めて考えることとなりました。

その答えとして出されたのが、昨年の「同時刻・同日おつとめ」の開催であります。従来

の記念祭は、教区でおつとめをつとめる形でした。その元一日の感謝の思いはそのままに、今までのような割り当てではなく、全道の教友が積極的に参加できる機会を持ちたいと、その思いで、この教区祭を築き上げてまいりました。

去年は、27支部と教務支庁を合わせた28会場で、600名の方が参加されました。今回、第2回となる教区祭は、この教務支庁会場で300名が参集し、各支部でも同日同時刻開催です。

まさに「広がり」と「つながり」、これが教区祭の大きな変化であると思います。今までの枠にとらわれず配信という新たな形を取り入れ、共に参加できる、つながることができるとい

う新しい教区祭の姿が示されました。

さらに今回は、参加者を募集いたしました。割り当てではなく、誰もが自由に参加できる。これが大きな特色です。

その結果、通常の座りづとめ

やよろづよ八首、前半、後半下りに限らず、10交代でのおつとめをつとめる事ができました。

先ほどのおつとめも、皆様が勇んでつとめられ、ご本部のおつとめにも負けないほど勇んでいて、私は深く感激いたしました。これが北海道教区の底力であると思っております。

教区長先生は、「もつと勇みしんじんを」というテーマを掲げられましたが、このねらいが、まさに実現した教区祭であつたと思います。

教区でのおつとめの熱気を今後、全道各地につなげたい、もっと広げたいと思っております。



教区祭



最後になりますが、昨日盛況のうちに Rowe されました福祉フェスティバル、そして本日の教区祭に至るまで準備に携わられた皆様に、心よりお礼申し上げます。

また、配信はすでに止まっているかと思いますが、各会場でおつとめに参加された支部の皆様方、本当にご苦勞様でございました。ありがとうございます。

これからも共に、教祖140年祭に向かい、北海道教区のさらなる発展を願って、力を合わせて歩ませていただきます。本日は、ありがとうございます。

第2回 北海道教区祭参加人数

- ・教務支庁会場
300名(天人269名、少年会員31名)
- ・支部会場
277名(天人250名、少年会員27名)
- ・参加者合計
577名(天人519名、少年会員58名)

※ ホームページでも閲覧できます



北海道教区 教区祭 もつと勇みしんじんを

発行

北海道教区祭実行委員会
札幌市中央区南8条西11丁目
電話 〇二・五六・二一四八